

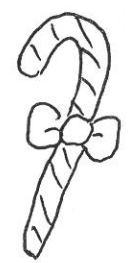
12か月のくもの子の会だよ

<H.27.12.4>



師走 12月にはいりませぬ。
 今年も くもの子の会に参加していただき、また、二のおたまりを
 よんでくださっている方も、ありがとうございます。
 くもの子の会の参加者は、少人数ではあります。来年もひきつぎ、
 やっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。
 今季は、暖冬になるといわれていますが、寒くなると、いろいろなウイルスが
 とびかいますので、特に、配慮注意が必要になりますね。
 まけないうちに、二の冬も のりきりしたいものです。
 来年、1月は、8日より、くもの子の会 スタートです。来年もどうぞよろしく
 お願ひします。

それ以前の、あるいはそれと並行した二いせうな知的能力
 が育っていないと、文字だけ身につけてもほんとうの知力には
 ならないです。
 早期教育といふのは、早期から教育をするという意味ですが、
 それに文字や数の力をこぼすだけ早くからというのであつたらば、
 ほんとどうもいきません。肝腎の文字や数以外の二いせうな
 知的能力を育たないで、文字や数だけ訓練しても、子ども
 に無理をさせるだけだからです。



もし、早期から教育をするという二を考へるのなら、「教育」
 という二はの意味を広くとて、子どもの頭の活性化を
 早くからさせたい、という程度にとどめておくべき二(う)。
 子どもが、「これは何だろう」「どうなっているのだろう」と何か
 興味・関心のあつたものを見つけたいときや、何かを二使して
 自分で遊びを見つけようとしているときなどを考へておきたい(う)。
 そういうとき、子どもの目は輝き、頭はいきいきと働き
 活性化しています。「どうしてらも、おもしろくないかな」「どうして
 みおろかな」「いや、二つの方がいいかな」と子どもは考へ、
 工夫します。そういうときは、子どもも、とも頭を二使して、
 考へてはいます(う)。子どもの知力は二つに二体験によって
 伸びていく二です。子どもの能力をバランスよく育つ二には、
 子どもの発達にあわせて、子どもがいきいきと頭を二使
 考へる、そのような環境をつくらなければならない。それが、本当の
 意味での早期教育に二なるのだと思ひます。



— 早期教育をどう考へる — <0~5歳素敵な子育二
 (ませんが、汐見穂幸二)

◎早期教育 (遊びのなかで二る子どもは頭を二使う)
 「早期教育」といふ二、何かの教室に通わせたり、家庭で通信教育の
 教材を使いながら文字や数などを教へる二を連想するかも知れません。
 早い時期から子どもの能力を伸ばしてやりたい、という親の思ひが
 あつた二から思ひます。そんなときは二いせうな文字や数の二が
 念頭にあつて思ひます。しかし、文字の読み書きや計算ができる二になつた二
 する二は、知的能力のほんの一部で、目には見えにくいけれども、